

# 統合講義（腫瘍学）

【単位数：1単位、授業 15 コマ(定期試験含まず)】

## 1 科目責任者

早稲田勝久 教授(医学教育センター)

科目担当者

笠井謙次 教授(病理学)

## 2 教育目標

### (1) ねらい(I-13-b, III-3-b, III-5-c, III-7-c, III-9-c, III-7-c, V-4-c)

- ① コアコンピテンスの“医学知識と科学的探究心”的理解のため、特に腫瘍の病因、病態につながる基礎医学的な要素、社会医学的背景を学び、さらに腫瘍の症候と適切な治療選択の概要、チーム医療を理解する。
- ② 肿瘍の基礎医学、社会医学から臨床医学までを俯瞰的に理解する。

### (2) 学修目標

- ① 肿瘍の定義・用語、病態を説明できる。
- ② 癌の原因や遺伝子変化、発癌機構を説明できる。
- ③ 癌検診制度や地域医療構想を概説できる。
- ④ 肿瘍の内視鏡診断・内視鏡治療を概説できる。
- ⑤ 肿瘍の手術療法を概説できる。
- ⑥ 肿瘍の放射線診断・療法を概説できる。
- ⑦ 肿瘍の薬物療法(殺細胞性抗癌薬、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害剤)を概説できる。
- ⑧ 肿瘍の診察におけるチーム医療を概説できる。
- ⑨ 肿瘍における緩和ケアを概説できる。
- ⑩ 肿瘍の診察における生命倫理を概説できる。
- ⑪ 肿瘍性疾患をもつ患者の置かれている状況を認識できる。

## 3 成績の判定・評価

### (1) 総合成績の対象と算出法

	成績対象	割合	方法・コメント
定期試験	○	100%	多肢選択問題を原則とする。一部記述式問題を含む場合がある。
態度	○	—	受講態度が著しく不良の場合は、10点を上限として減点をする。

出席：定期試験を受験するためには欠席率が3分の1を超えてはならない。

Team-based learning(TBL)の進め方などは9月1日(月)2限の講義中に説明する。

### (2) 合格基準

評価対象の合計が60%以上(又は60点以上)で合格とする。

### (3) 再試験・再評価の方法

上記(2)で総合成績が60%未満の場合は、再試験を実施する。再試験は多肢選択問題を原則とするが、一部記述式問題を含む場合がある。再試験の60%以上を合格とする。

#### (4) 課題（試験やレポート）へのフィードバック

定期試験の成績の総括を学内メールで通知する。

これにより、理解が不十分な項目について再確認を促すとともに、定期試験が不合格となった者は再試験に備えること。

#### 4 教科書

書名	著者名	出版社	教科書として指定する理由
レジュメ配付			

#### 5 参考図書

書名	著者名	出版社	参考図書とする理由
入門腫瘍内科学	日本臨床腫瘍学会編集	南江堂	臨床腫瘍学の入門書。医学部生に必要な臨床腫瘍学の知識が、わかりやすくまとめられている。

#### 6 準備学習（予習・復習）

レジュメの復習を行うこと（1日あたり約1時間）。

#### 7 授業計画

##### (1) 講義の方法

基本的に大教室での知識伝達型講義であるが、一部講義中に講師との質疑応答を導入する。

症例(9月2日(火)2限症例提示)に基づくTBLを9月3日(水)5限に実施する。

##### (2) 講義の内容

腫瘍の基礎医学的知識の整理と、臨床現場での癌患者の診断治療の流れを想定して講義を進める。